

愛西市議会議員と海南病院院長との意見交換会

平成26年6月19日に愛西市文化会館において、海南病院 山本院長を中心とする医師事務職の方総勢4名をお招きし、医療現場の現在の状況や海南病院がこれから担っていく役割などについて、院長からミニレクチャーを受けた後、意見交換会を行いました。

平成26年度診療報酬改定の基本ポイントとは、入院医療・外来医療を含めた医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実等に取り組み、医療提供体制の再構築、地域包括ケアシステムの構築を図ることを、基本認識としています。

海南病院の海部医療圏における環境認識は、周辺医療機関の医師不足による機能低下からの回復が遅れているといった考えのもと、医療全体の機能低下を防ぐため、地域連携推進の中心的役割を果たすとともに、高度専門医療センターとして一層の機能向上を図っていく必要があることでした。

そんな中、平成25年9月に愛知県から海南病院が県下19番目の救命救急センターの指定をされており、海部医療圏初とのこと。また全国の大学病院本院80病院を除く大学病院本院に準じた機能を有する病院と

して全国99病院の中の1つに選ばれているとのことでした。

山本院長からの説明を受け、議員からは、高機能外来として整備されたことにより今後、風邪などの病気程度では診てもらえなくなるのではとの質問に、そういった病気の診療も継続して行っていくが、高機能から初期まで地域医療全てを力パするのは無理なため、病院、診療所の役割に応じた綿密な連携をこれからも図っていききたいとのことでした。



「市有財産有効活用事業」について視察

平成18年に教育や福祉の目的に使ってほしいと愛西市早尾町船原地区の土地・建物の寄付を受けました。

市は、将来的にも利用計画がない市有財産を有効に活用するため、公募型プログラムで事業計画及び事業者を選定する「愛西市市有財産有効活用事業」をつくりました。

平成26年度、この早尾町



の土地を有効活用するため、公募を実施しましたが提案者がありませんでした。

市は今後引き続きこの施設が有効活用に関して検討が必要と考えています。

議会では、全常任委員会終了後、この土地を視察して、今回の公募の失敗について課題などを聞きました。

